

令和6年度 関係者評価の結果について

令和6年度に実施した認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果についての関係者評価の概要は次のとおりです。

学校法人 北邦学園
認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園

記載用

建学の精神「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎ 思いやりのある子
- ◎ 丈夫で明るい子
- ◎ 想像力豊かな子
- ◎ やる気のある子

関係者評価の区分

- A：成果を上げている。
- B：ある程度成果を上げている。
- C：もう少し努力が必要である。
- D：改善が必要である。

【各学年のねらい(年間)】

0歳児 いろいろなものに興味をもち、保育教諭と一緒にのびのびと遊ぶことを楽しむ

1歳児 色々な遊びに興味をもち、保育教諭や友達と関わり、遊ぶことを楽しむ

2歳児 様々な遊びをする中で、保育教諭や友達に自分から関わり、一緒に遊ぶ楽しさを感じる

3歳児 様々な遊びや活動に興味をもって取り組む中で、自分なりに気持ちを表現しながらいろいろな友達と関わり、遊びを楽しむ

4歳児 いろいろな友達と一緒に様々な遊びや活動を楽しむ中で、気持ちや考えを伝え合いながら目的に向かって意欲的に取り組む

5歳児 一人ひとりが様々な活動に見通しや目標をもって意欲的に取り組み、いろいろな友達と互いに気持ちや考えを認め合いながら自信を持って遊びや活動を進める

自己 評価	各 学 年 の ね ら い に 対 す る 評 価 内 容	関係者評価	
		評価	意見等
「A」	・ねらいを意識し、達成に向けて保育内容の設定や援助ができた。各学年で年度当初にねらった姿に成長している姿が見られ、おおむね達成することが出来た。	「A」	・『健康』『人間関係』『環境』『言葉』『表現』を意識したねらいが感じられた。 ・最終的なねらいが明確なことで、どんな姿になってほしいかが明確であり、そこに向かう援助がなされていると感じた。 ・実際の子どもの姿を見ても、概ねねらったとおりの成長が見られたため、達成できたと考えられる。 ・年齢に応じて、自分で出来ることは取り組めるように援助が出来ていたと感じた。

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

目 標	具体的な取り組み計画	自己評価	関係者評価
			評価・意見等
1, 円滑な園運営 自己評価「B」	◎昨年度の反省をふまえ、保育や行事運営の際に円形な連携を取り、よりよい保育の提供を目指す。 【行事や保育のねらいや意図の共通理解】 ・年度初めに作成している経営案に記載されているねらいについてみんなで見合い、意識統一をして行事の計画・準備・実施をする。	【評価内容】 【行事や保育のねらいや意図の共通理解】について 「A」 ・昨年度に比べ、行事前に担任や行事担当から事前に経営案を確認する声かけがなされることが増え、保育内容の計画や実施、評価・反省を行おうとする意識が高まっている姿が見られた。 ・共通で趣旨やねらい等を見合う機会はあるが、年数の若い先生については、理解して準備や援助などの進めるという面で難しく、戸惑う姿が見られた。	評価 「 A 」 ・5領域を意識した狙いや意図が設定されており、行事での子どもたちの姿にも出ていたと感じる。 ・新人の先生や年数の浅い先生には、先輩の姿を見て、手厚い学びを受けながら、サポート体制をしっかりともって働けるようなシステム作りが必要だと感じる。

	【保育教諭間の連携の向上】 ・管理職で仕事内容や園運営についての確認を定期的に行い、決定したことを明確化して職員が混乱せずに仕事に取り組める体制づくりを行う。	【保育教諭間の連携の向上】について [B] ・意図やねらいを事前に確認し理解する機会を持てるようになったことで、先生方の連携への意識が高まり、昨年度より声を掛け合う姿が増えた。 ・管理職の全体の把握と声掛けが不十分だったり、指導の内容が異なったりすることで混乱を招き、連携がスムーズにいかないことがあった。 ・乳児部門、幼児部門の行事担当の先生方で時間を合わせる事が勤務形態上難しく、連携が取りにくいことがあった。	・シフト勤務だと打ち合わせ時間が大変だと思うが、声を掛け合い連携しようとしており、評価できる。 ・全職員が必ず見ることが出来るツールが一つあるといいのではないかな。
2. 子どもの人権を意識した関わり 自己評価「B」	◎職員一人ひとりが、子どもたちの人権について考え、自分自身の関わり方を振り返り、安心して過ごせる保育の場を目指す。 ◎職員が心身ともに健康に過ごし、子どもと豊かな心で関わる環境づくりを行う。 【保育の振り返りの機会を設ける】 ・近年、不適切保育などを取り上げるニュースが散見されることをふまえ、職員一人ひとりが日頃の声掛けや援助について、子どもたちを尊重した声掛け援助になっているかを振り返る（令和5年に引き続き人権チェックリストを活用する。）	《評価内容》 【保育の振り返りの機会を設ける】について [A] ・人権チェックリストを用いて自分の保育を振る機会を作ったことで、改めて子どものかかわり方について考え、反省点や評価点などを自分なりに意識し保育に活かす姿がみられた。 ・気になるニュースなどを耳にした際は、先生同士で情報を周知したり、申し送りの会で伝えたりすることで、子どもの人権を守る意識をもちながら関わる姿がみられた。定期的な振り返りや気づきの共有などは今後も継続して行っていくべきだと考える。	評価 [A] ・保育教諭それぞれの『保育観』など保育に対する考え方や思いを他先生と話したり、協議したりする機会があることはよいと思う。

	- 子どもたちの成長にとってよりよいものになっているかを考えた計画や実践を行う。(特に、節分などの日本の伝統行事や季節ごとの行事についても、正しく由来を知り、安心して意欲的に楽しめる内容であるかを考慮する。) - 職員が子どもたちの成長や姿について、気づいたことを伝え合い、自分たちのクラスだけでなく、園全体で子どもたちを見守る環境を目指す。 【職員が心身ともに健康に過ごし、保育に意欲をもって取り組める環境作り】 - 子どもたちへ愛情を注ぎ、温かく子どもと接している職員たちが心身ともに健康で余裕をもって保育に取り組めるシフトの組み方、人員配置、仕事内容について、管理職を始めとして話し合いの場を設け、改善に努める。 - 仕事内容を見直し、勤務時間等の改善に取り組む。職員一人ひとりが自分の仕事の進め方について見直し、無駄のない仕事の進め方を考えて取り組む意識をもち、業務の時間短縮に努める	- 節分などについては、由来を適切に子どもに伝わるような内容にで行うことが出来た。 - 子どもの姿については、クラスに関わらず、子どもの成長を園全体で見守っていく意識を持って関わっている先生がほとんどだったように感じた。保護者からも、園全体で子どもを見守ってくれる雰囲気を感じるとの声を聞くことが出来たのはよかった。 【職員が心身ともに健康に過ごし、保育に意欲をもって取り組める環境作り】について [B] - 仕事の内容の整理や見直しをしたことにより、円滑に進むことが増えると、子どもの「やってみたい」という気持ちに寄り添って保育に取り組めたという職員からの声があった。 - 業務内容や進め方については、書類作成の煩雑さや連携の取りづらさによって、時間がかかることがあった。書類や手紙の作成の行い方や、連携の取りやすいシフトの組み方などについて引き続き改善に向けての取り組みをしていく必要があると考える。	- 不適切保育のニュースが取り上げられた際には、見守りカメラの設置をするなど行動に移してくれたことが安心感につながった。 - 周知されていることが素晴らしい。先生方の関りで疑問に思うようなかかわりを見たことはない。 - 小学校でも『人間尊重の教育』には重きを置いている。どんな些細なことでも、全職員で共有することは子ども理解につながる。先生たちの姿は子どもたちに繋がりが、子どもに接する姿を見て保護者の信頼につながる。 - 園全体で子どもたちを見ている安心を感じられよかった。 - 子どもたちのよりよい成長に必要なことは何かしかりと見極めていくことで、業務の効率化が図られ、先生たちに余裕がうまれる。先生たちが一番しなければならないことは「元気に笑顔で」子どもたちと接することであると考え。
--	--	--	---

3. 保護者対応と連携の強化 自己評価 「B」	◎保護者が安心して子どもを預けられるよう、連携系統のミスの軽減に努める。 ◎保護者が子どもの様子をつぶさに知ることが出来るようにする。 【手紙などの内容・発行時期について、分かりやすく適切な発行をする。】 - 手紙などの配信や登降園時間の管理などを、オンラインシステムで行っているが、活用できていないことにより、不便さを感じることもある。再度使い方を検討し、利用方法を考慮することで、保護者との連携ミスの減少や情報交換の円滑化に努める。 - 定期的なアンケートで、保護者の声を聞き、園と保護者のコミュニケーションの機会とする。 【保護者との綿密な情報共有】 - 日頃から子どもの様子や気になる姿なども保護者の方へ伝えておくことで、安心感を持てるようにする。	【手紙などの内容・発行時期について、分かりやすく適切な発行をする】について [B] - オンラインシステムでお知らせを配信することで、全体への素早い周知が出来た。 - 手紙発行において、昨年度の反省をふまえ、月の予定表を早めに発行するなど、時期を見直し、改善したものがあったことはよかった。 - 準備物などのある場合のお知らせについてももう少し早めの発行時期にしてほしい、行事の手紙がいくつかに分かれて配信されると、どれを見ていいかわからないとの声があった。 - アンケートについては、気軽に答えられるような内容や、園運営にその都度活かしていける内容をもう少し考慮して取っていただけるとよかったと感じた。 - 数多くのお知らせが配信されることで、重要な手紙の内容などが埋もれてしまい、確認したい情報が見つけられず困ることがあるという声が聞かれた。時期を過ぎたお知らせを整理したりカテゴリを分けたりなどの工夫が必要だった。 【保護者との綿密な情報共有】について[B] - コドモンなどのオンラインシステムを利用することで利便性が高まった反面、年度末アンケートでは、電話やお迎え時にもっと子どもの成長や様子を聞きたかったとの声があった。一人ひとりの成長を保護者と共有するという点において、クラスによっては課題が残った。 - クラスの担任や補助の先生以外も、子どもの姿や成長を伝えてくれることがあり、嬉しいとの声が聞かれた。	評価 [B] - お知らせをする際にはわかりやすさや見やすさ、正確さも大切だと感じる。 - 前年度より月の予定表が早く配信され予定が立てやすくなったのはよかった。 - 日頃丁寧に連絡を行っているからこそ、「もっとわかりやすく」「もっと使いやすく」になるのは当たり前だが、「コドモン」や「HP」での情報発信の工夫すれば、様々な問題が解決できると感じた。情報共有をするにあたっては、「電話や直接会った時に聞きたい」という意見があるという点では、デジタル化は便利だが、アナログが必要な時もあると思う。「電話週間」「お迎え週間」などを設定し、直接話す機会を増やすことで嬉しい保護者もいるのではないかと考える。
---------------------------------------	---	--	---

	- 子どもたちが園の保育の中で、のびのびと遊び、楽しそうに過ごす姿を発信することで、来園する機会が少ない保護者の方にも、園の様子が伝わるように取り組む。 - 園の教育理念や行事や保育の意図を発信していくことで、園の保育への保護者理解を深めるとともに、園見学などにも保護者の方が気軽に来れるような環境作りを行う。	- 連絡帳やブログで写真付きで子どもの様子を配信してくれることで、クラス活動の様子を知る機会になったという声があり、実施の効果を感じることができた。 - 保育の意図を伝える機会や見学の周知については、もう少し広く行うべきだった。気軽に来れる体制作りまでには今一歩届かなかったため、改善していきたい。	- お迎え時に担任から声をかけてもらうことで様子を知ることが出来た。 バス登園等の保護者の方たちなど園に来る機会の少ない保護者にはもう少し密に連絡できるとより安心感につながるのではないかなと思う。 - 連絡帳は毎日の個別連絡、ブログなどでも写真付で園の様子を配信があり、ありがたい。半面、先生方の負担などもあるように感じる ので、頻度がもう少し少なくていい部分もあると思うので、業務軽減ともすり合わせ内容を考慮してもいいと思う。
--	--	--	---

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法	関係者評価
		意 見 等
① 子どもたちがのびのびと遊べる環境作り	② 【子どもたちの成長や発達理解】 ⇒教育保育課程などに照らし合わせながら、子ども一人ひとりの成長を見取り、興味や発達に寄り添いながら援助を行う。	・教育で最も大切にしなければならないことは“子どもの安全安心を守

	③【園環境の安全についての意識を高める】 ⇒年度初めに、環境や遊具の点検の方法や、予想される危険について考え、安全の視点について共通理解をする場を設け、事前の安全点検や環境整備、援助の際に意識できるようにする。 ⇒毎日職員で行っている申し送りの会で、ヒヤリハットを共有する。些細なことでも伝え合う意識を持てるよう取り組む。 ④【園環境を活かした遊びの充実を目指す】 ⇒園庭の『かぜのふねシルフィ号』『こもれびのいえ』『ゆめこうぼう』、2F 遊戯室の『デン』『えほんのもり』など魅力的な環境を存分に生かし、子どもの遊びを充実させる。 ⇒職員がそれぞれの遊具の魅力を考え、安全かつのびのびと遊ぶ方法を考え、遊びのアイデアを職員間でも共有し、一緒に楽しむことで、子どもたちの遊びの意欲や興味のきっかけづくりをする。 ⇒子どもの遊びやアイデアに寄り添いながら、教材や環境を準備することで、子どもの主体的な遊びが継続して楽しめるようにする	る”ことであり、環境作りに重点を置くことは賛成である。施設面だけでなく、様々な環境、つまり子どもを取り巻く状況の整備にも目を向けてほしい。自然環境、保育環境、学習環境、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるよう子どもたちの様子を見て知恵と工夫で創り上げてほしい。 ・職員同士のコミュニケーションがとりやすく、風通しのいい雰囲気でお互いの意見が尊重される場であると情報共有がしやすいと考える。働きやすい雰囲気の中で色々なことを考えたり実施したりすることが子どもたちにとってもいい援助に繋がると思う。今でもいい雰囲気ではあるが、今後もそうであってほしい。
②保護者が安心できる園づくり	①【園と保護者の相互理解を深める】 ⇒クラスのプロゲや乳児の連絡帳の配信を継続して行い、来園する機会が少ない保護者にも、子どもの生き生きとした園での様子や、その時期の成長・保育の趣旨やねらいなどが伝わるように内容を工夫する。 ⇒電話やお迎え時の会話などでコミュニケーションをとり、園や家庭での子どもの姿を共有し、成長を喜んだり悩みに寄り添ったりすることで安心感を持てるようにする。また、職員一人ひとりが意識して、挨拶や気持ちのいい声掛けを意識し、保護者の方とのコミュニケーションが取りやすい雰囲気づくりに努める。 ⇒マザーズデー・ファザーズデーの開催や、日頃の保育見学が可能であることをより広く周知し、園での様子を知る機会を増やすことで、園と保護者の保育や子どもの姿などの相互理解を深める。	・園のすべての職員が子どものことを知っているということほど信頼できるものはないと考える、先日の会議で保護者代表の方が言っていた通り、桜台いちいではできていると感じる。今後さらに全員でそれが出来るよう工夫しながら取り組んでほしい。 ・園の見学についていつでもいいという形だと行きづらい。マザーズデー・ファザーズデーなどだと行きやすく感じるので、工夫することでよりよい参加の機会となるように期待する。

	② 【わかりやすい情報配信の工夫】 ⇒今年課題であった準備物の多い行事の手紙の発行時期や、運動会や生活発表会など、お知らせが多くなる行事については、情報をまとめて確認できるよう工夫する。 ⇒知りたい情報が埋もれて振り返りにくいという点では、必要な時期を過ぎたお知らせを削除する、カテゴリ分けをするなど、よりよい方法を模索していく。	
③ 安定的な園運営	① 【職員間の円滑な情報共有】 ⇒管理職が行事の運営の際には、趣旨やねらいについて共通理解をした上で、一貫した情報の周知や指導ができるようにし、職員が円滑に保育や業務を行えるようにする。 ⇒年数の若い先生たちについては、管理職や先輩の先生と一緒に進めながら指導し、理解を深めていけるようサポートをしていく。 ⇒経営案「いちいの保育」を確認する習慣をつける。全員が同じものを見て情報共有を行い、スムーズな連携が行われるようにする。 (全職員がいつでも確認することが出来るようクラウドシステムなどを利用し掲載する) *例年、様々な手紙や行事の流れなどが多岐にわたり配布されることが原因で、情報が混乱し手間が増えることが多かったため、情報共有に使用するものを統一する ② 【保育教諭の連携の向上】 ⇒日頃から職員同士の円滑なコミュニケーションを心掛け、子どもの姿や業務の進捗や保育のアイディアなどを共有しやすい環境づくりを行う。 ⇒乳児部門・幼児部門の保育時間などを考慮し、打ち合わせや作業が進めやすいような業務分担をし、円滑な連携がなされるようにする。	・情報が多いと確認したはずのことが抜け落ちるため、情報の整理が出来なかったりする。簡潔な情報共有を簡潔にできるように考えていくとよい。 ・全員が確実に目を通せるツールがあるとよい。 ・限られた人員でどう対応するかは、どこも課題だと感じる。現場の職員の想いや考えのすり合わせも大切だと思う。お互い積極的なコミュニケーションを取ることが、連携の向上に良いと考える。

	⇒管理職や行事担当は、振り分けた業務が円滑に行われるよう、全体への周知や事前の声掛け、途中経過の確認をする意識をもつ。 ③ 【職員の定着率の向上】 ⇒業務改善に努め、業務の内容や時間の削減に努力し、長く働きやすい職場環境にすることで、定着率の向上を目指す。先生方一人ひとりが心身ともに健康で働きやすい環境になる人員の充足を目指していく。	・管理職、主任が若い先生たちの人材育成をしなければならないのは当たり前のことではあるが、大事なことは長く続けられる人材を育てることではないか。経験の少ない先生が出来なかつたり失敗したりするのは当たり前。その中からしっかり学んで次に生かせるよう指導・助言することが必要だと考える。「やる気」「やりがい」「楽しさ」を感じて将来のビジョンが持てるよう、周りでサポートすることが人材育成だと思う。今できる100%が出来たら褒めて育ててほしい。
--	---	--